喜田議員 皆さん、おはようございます。4番、喜田です。質問に入る前に少しお時間をいただきます。ロシアによるウクライナ侵攻で多くの犠牲者が出ています。世界の平和と安全を著しく損なうもので、認めることはできません。即時の攻撃停止と撤退を強く求めまして、質問に入らせていただきます。それでは、事前に通告していました次の2点についてご質問させていただきます。まず、最初に牟岐港に非常用ハシゴの設置についてお伺いします。今年の1月中旬、夜間の散歩中に70代の男性が牟岐港に誤って転落し、漁業関係者の方に救助されるという、出来事がありました。漁船の燃料補給のために、漁港に近づいたとき、海面を犬が鳴きながら泳いで来たため、不審に思い辺りを調べると、海中に転落した男性を発見し、直ちに救助を行ったとのことで、命には別状なかったようです。無事救助された方は、飼い犬と散歩中に誤って漁港に転落してしまい、海中から上がることができず、漁港内に係留していた漁船につかまって救助されるのを待っていたとのことです。この港には海面から陸へ上がる非常用ハシゴの設置がないため、上がることができなかつたようで、以前にも高齢の漁業関係者の方が漁港内に誤って転落してしまい、海面から上がることができず、漁船につかまって海面に浮かんでいるところを救助されたこともあるようです。幸い今までに死者は出ていませんが、何度かこのようなことが起こっているようで、漁業関係者の中には、誤って海に転落したときのために、自らの漁船に非常用のハシゴを取り付けて、海面から上がれるようにしている方もおられるようです。また、牟岐町内の他の漁港では、出羽島漁港も非常用のハシゴの設置はないようです。漁港は、本来漁業従事者の方々が就業を行う場所ですので、漁港に転落防止フェンスなどを設置することは、就業の妨げになることから不可能と認識します。また、漁港内は漁船の往来が頻繁にあり、設置する場所につきましても、漁協や漁業従事者の意見を聞きながらの協議が必要になると思いますが、安全面の確保から、万が一、誤って港内の海中に転落してしまったときに、自力で上がることができるような非常用のハシゴ、または、それに近い物を漁協や漁業従事者の方々と十分協議の上、就業を妨げない場所を基本とし、港内を囲む三辺に対し、各1箇所程度への設置が必要ではないかと考えますが、このことについてご見解をお聞かせください。よろしくお祈いします。次に、出羽島重伝建への取り組みについてお伺いします。平成29年度に出羽島の集落が「重要伝統的建造物群保存地区」の指定を受け、その後、国や県、そして町の補助金を活用し、伝統的な価値をもつ民家の改修を、この5年間で約16軒ほど行っています。出羽島にある建築物は、江戸時代後期から昭和3、40年代頃までに建造されたものが多く、国からは規模や形式が揃った漁家の主屋が立ち並ぶ集落

の景観が発達しており、非常に価値が高いとされています。現在も残っている建造物の中には、牟岐町へ寄付されたものもあり、その中でも最も古いとされているのが、寺屋敷と呼ばれる建物ですが、現状は傷み具合が酷く、既に改修不可能に近い状態となっているようです。町の所有とはいえ、重要度の高い建物とされていますので、早急に改修を行うことが必要となってきています。また、その他にも、このような島内には老朽化が進む建物が多くなってきおり、できるだけ早く改修を行わなければならないという状況です。これまで重伝建への選定により、改修などで集落の景観保全を活発に進めてきていますが、補助金を活用しての推進には限界があり、改修が間に合わない状況となっているようです。かつては、小学校もあり、たくさんの方が暮らし、にぎわった出羽島です。この伝統ある出羽島にゆかりのある人は、牟岐町外にもたくさんいらっしゃいます。最近ではコロナ禍により、開催できていませんが、出羽島アート展の開催時には、たくさんの方が訪れ人気を集めました。そこで、今後はもっと重伝建についての情報発信を行い、クラウドファンディング等の活用も視野に入れながらの推進を行うことも必要ではないかと考えますが、このことについてご見解をお聞かせください。よろしくお願いいたします。

一山議長 枳富町長。

(枳富町長 登壇)

枳富町長 喜田議員ご質問の「牟岐港に非常梯子の設置を」に関してのご質問にお答えします。まずは、先般、港に転落された方が無事救助されたことに関し、安心するとともに、危機を察知して人命救助をしていただいた漁業関係者の方には、改めて感謝を申し上げる所存です。さて、牟岐署によりますと、町内の港への転落事故は、過去10年間で4件の通報があったとのこと。そこで、町内のそれぞれの港の梯子設置状況ですが、県管理の牟岐漁港では、楠之浦で5基、西浦で2基、東で5基、古牟岐で19基の計26基が設置されています。町管理の出羽島漁港では3基の梯子が設置されています。これらの梯子には、施設管理者が設置したものと、個人が簡易的に設置されたものとの両方があります。梯子の新設に関しては、議員ご指摘のとおり漁船の利用や漁業活動に際し支障となる場合もあり、安全対策との両面から鑑みると良し悪しがありますので、両漁協と相談した上で、必要に応じた対応をしたいと考えています。以上です。

出羽島重伝建への取り組みについては、教育次長よりご答弁させていただきます。よろしくをお願いします。

一山議長 久岡教育次長。

(久岡教育次長 登壇)

久岡教育次長 それでは、私から出羽島重伝建への取り組みについてお答えします。議員おっしゃるとおり、平成29年度、牟岐町出羽島重要伝統的建造物保存地区の指定を受けてから平成29年度におきましては3件、30年度が5件、31年度が3件、令和2年度が3件、今年度2件ということで、計16件の修理・修景事業を実施してきています。ただ、財政の厳しさから年間整備件数として、2件ずつとする町としての方針となりまして、現在は2件ずつの整備を実施しているところです。ご指摘にもあります、町有物件についても整備したいところではありますが、これまで出羽島の方々の高齢化等、事業の推進を考えたいうで、住民のお宅を優先的に整備してまいりました。しかしながら、町有物件である番屋、寺屋敷と呼ばれる価値の高い建物は徐々に倒壊の恐れも出てきています。また、文化庁からも指摘を受けている状況です。したがって、令和5年度においては、2件のうちの1件として番屋を整備したいと考え、先日ですが地域の方々の承諾も得ています。議員ご提案のクラウドファンディング等の活用は、これからの時代必要不可欠になっていると感じていますし、既にいろいろな分野で活用している町もあります。ただ、懸念事項としまして、クラウドファンディングでいくら集まるのか、現在、整備しています単純計算ですが、1件あたり700万円から800万円の事業費がかかっています。もし不足する場合、まかなえるまで待つのか、町費でまかなうのかという検討も必要となってきます。もう1点、現状、専門技師なしの事務職員で事業対応しているため、専門的なご指摘等をいろいろいただくところです。もし整備件数を増やすとなると、専門的人材確保は必須であると考えています。事業推進のためいろいろな工夫も必要だと考えますので、今後、財政部局とも連携し前向きに検討させていただきたいと思います。以上です。

一山議長 喜田議員。

喜田議員 只今、町長、教育次長からご答弁をいただきました。ありがとうございます。

港内への非常用ハシゴの設置につきましては、安全対策の一つとしまして、考えなければならないと思いますが、いつ発生するかわからないことへの対応となりますので、漁協や漁業従事者の方々の意見を十分伺い、十分協議を行っていただき県への要望も行っていただくことをお願いしたいと思います。また、出羽島重伝建への取り組みにつきましては、限られた補助金の中での対応となり厳しい状況ですが、建物の老朽化は待たなしですので、今後、重伝建についての周知や情報発信の方法をお考えいただき、より多くの方にこのことを知っていただき、少しでも多くの建物の改修が早く行われることをお願いしまして、私からの質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。